

公表 保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名		保育所等訪問支援 ステラ	
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		2026年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 23日		2026年 2月 6日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・同じ法人内のこども園が訪問先施設の1つになっており、クラス担任との連携が回りやすい環境である。	・普段からクラスとのやりとりは大切にしており、情報交換をしやすい環境をつくるようにしている。 ・ケース会議の中で担任や直接支援にかかわる支援の先生とも情報共有したり、支援の方法について一緒に考え共有している。	・クラス担任(主担任)との話をする時間を定期的につくり、クラスの困りごとや子ども支援について、より密に情報の共有を行っていききたい。 ・また、具体的な支援の方法や教材なども一緒に考え共有していききたい。
2	・児童発達支援の利用者のほとんどが保育所訪問等支援も一緒に利用しており、児童発達支援での療育の様子や支援の方法をクラス運営にもいかすことができる。	・クラスでの困りごと等も出していただくだけでなく、児童発達支援での支援方法等もお伝えしている。	・園とのやり取りをより密に行うことで、クラスでの支援と事業所での支援の双方にとって意味のあるものにし、日々の支援にいかしていく。
3	・園だけでなく、小学校にも枠を広げている。 ・ニーズが増えている。	・保護者のニーズもあり、小学校もスタートし、まだスタートしていない学校についてもアプローチをしていっている。	・小学校についてはスタートしたところであるため、関係づくりを大切に、情報共有を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業開始まもなく、法人外の訪問先との連携がとりづらい。	・事業が始まって2年目であるが、訪問支援員としての経験を積み重ねている段階である。が浅い職員が多い。訪問先との連携の回り方については、2年目に入って基盤はできてきたが、小学校など新たにスタートしたところもあり、手探りな部分もある。	・クラスとの情報共有を密にしていくと共に、研修やガイドラインの再確認など、支援員としてのスキルアップを図っていく。 ・支援員同士の情報共有を密にし、専門性を高めていく。
2	・訪問支援の希望者が増えており、1人の訪問支援員が抱える子どもの人数が多い	・利用者のニーズが多く、年度途中から訪問支援を始めたところもあり、その影響も大きい。	・新たに訪問支援を希望している方がいる状況であり、利用する児童が今年度よりも増えていくことが予想されるため、訪問支援員の増加は必要であり、職員体制とあわせて検討していききたい。
3	・職員の情報共有の時間が十分にもっていない。	・訪問支援員が療育と兼任しており、それぞれの部署の業務もあるため、情報共有する時間が持ちにくい。	・定期的にモニタリングする機会は持っているので続けていく。同時に顔を合わせる機会は持ちにくい、それぞれの部署のパソコンやラインで、情報共有や連絡を取り合うなど工夫して進めている。訪問支援員会議を不定期で持っているが、今後は定期定期に開催していききたい。